

# 議会だより

## 第491回西ノ島町議会 9月定例会一般質問（要約）



吉田 歳造 議員

### 小中学校の学校行事について

この町の未来を託す子どもたちの教育は大変重要であり、学校、家庭、地域の三者が一致協力して行われるべきと考えている。学校行事を通して子どもたちがどの様に成長しているか次の2点について教育長に質問する。

質問①西ノ島小学校6年生と兵庫県伊丹市の小学校6年生の年間行事を比較して西ノ島小学校の方が行事が多いため、指導される先生方は行事に追われていないか、日々しっかりと腰を据えた学びが出来ているか、指導されている先生が、どのように感じているか伺う。

### 回答 教育長

西ノ島小学校の行事が多くないかとの質問については、都市部の学校とは

社会環境、教育環境も異なることから、単純な比較はできないが、少なくとも隠岐島にある11の小学校と比べて、本校が多いということはない。

次に、先生方が行事に追われていないかとの質問については、教育委員会で平成30年に教職員の意識について実態調査を行っている。その結果として、教職員が最も負担に感じているのが保護者対応であった。また先生方の意見の中で、学校行事の精選という意見もあり一部見直しも行ったが、学校行事については保護者の要望もあり、なかなか廃止できない事情があった。ただ今後、新たに行事を増やすことは、児童や先生方の負担が大きくなり望ましくないことは、学校と教委の共通認識となっている。

教職員の負担軽減については、昨年9月に策定した「教職員の働き方改革プラン」に沿って、長時間勤務の抑制や学校閉庁日の設定、部活動の短縮等、一つずつ取り組んでいるところであるが、プラン策定から一年経過しているため、近いうちにプランの検証を含めて、教職員

向けの勤務実態調査を行う予定で、その調査結果も踏まえて、行事の見直しについても検討したいと思っている。

質問②西ノ島小学校は、陸上大会、バスケットボール大会、学習発表会、音楽会、学力テスト等の結果や出来栄が求められる行事が多いように思う。よい結果の過程には、大きな価値があることも多いため、よい結果を生み出すことも大切なことだと思うが、結果や出来栄ばかりを求めてしまうと、本来追求すべきである運動の楽しさや学びの楽しさ、友だちとの関わりを見失ってしまう可能性もある。学校行事をどの様にとらえ共通理解し、子どもたちに指導されているのか、また、子どもたちは、どの様に取り組み成長しているか伺う。

### 回答 教育長

陸上大会やバスケット大会等の学校行事をどの様にとらえ、どのように指導しているかとのことについては、学校行事には、それぞれに狙いや目的があつてのことは、教員の経験をお持ちの吉田議員にはご承知のことと思うが、行事の計画・実施にあたっては、全教職員が職員会等で話し合つて、その行事の意義を

理解し指導を行っている。そして、子どもたちは、各行事を通して、「主体的に物事に取り組む力」や、「責任感、連帯感の醸成」、また「好ましい人間関係の構築」等を身につけ、「児童の人格形成や心身の健全育成」に大きな役割を果たしているものと思つている。西ノ島小学校が「めざす学校像」は「楽しい学校」であり、「めざす子ども像」は「学力・ハート・パワー」の3つをバランス良く備えた子どもたちである。そのため勉強や行事、様々な取組を行っているが、子どもたちは教科学習よりも、むしろ学校行事を楽しんでおり、行事を通して体力面や精神面で着実に成長している。昨年从今年にかけて、コロナの影響もあり、子どもたちにとっては、貴重な体験・行事が中止や規模縮小となったが、ご指摘のとおり、これを機会に、また、働き方改革プランの着実な実行のためにも、行事の見直しについては、今後検討していきたい。





春員 正 小島 正 議員

災害に強い町づくりについて

8月9日の低気圧の暴風により、船の沈没や損傷が多く発生し、また、大雨により道路の冠水や車の水没による故障も数台発生した。そこで災害に強い町づくりとして、次の2点について町長に伺う。

質問①台風による船の事故を防ぐため、

町の管轄である美田港を長寿命化計画に合わせて台風対策として、防波堤を作る必要があるのではないか。

回答 町長

暴風対策として美田港に防波堤をつくる必要があるのではとの質問について、美田港は、船引運河を利用し、漁船等が内海と外海を行き来する、非常に便利な港湾となっている。台風9号による大雨の際には、美田港湾内は潮位が満潮となり、市部地区の岸壁では潮位が通常時より60cmも上昇し、また台風による風の影響を受け、停泊する船舶が岸壁に乗り上げ、港湾施設の一部を破損したとの報告を受けている。今回、防波堤の必要性を

問われているが、港湾内において台風等の暴風で吹き込む風は、1年を通じ様々な方向から吹き込み、その影響を受ける越波についても、様々な地区で影響を受けている。美田港は、間口が狭く奥まった天然の良港であり、港湾内を運行する船も多く、影響を受ける全ての箇所、又

は、船舶の避難場所として防波堤といった施設等を新たに区域内に造るのは難しいと考えている。越波による対策として、来年度より大津地区において、港湾施設の改良事業を行う予定としている。これは、大津区からの長年にわたる要望でもあり、現場の状況から、町としても防潮堤等、高潮対策の必要性は十分に認識しているため、有効な施設整備を検討していく。

質問②異常気象により全国いたるところ

で線状降水帯が発生し、局地的に大雨をもたらしているが、近年は海面も地球温暖化により上昇している。今回以上の大雨が降った時には小向・船越地区の水路沿いの民家や施設は床下浸水、あるいは床上浸水の可能性も危惧するところである。今後の異常気象に備えて、水路の嵩上げや側溝の整備が必要ではないか。

回答 町長

今後の異常気象に備えて水路の嵩上げや側溝整備が必要ではないかとの質問については、今回の災害は、50年に一度といわれる大雨により、全町にわたって甚大な被害が発生している。ご指摘の「みゆき荘」付近の道路については、周辺道路より低く、水が集まりやすいところである。そのため、排水施設等は整備しているが、今回の大雨は、美田港の満潮時と重なり、既設排水の処理能力をはるかに超える排水量となったため冠水したところである。その他、ご指摘のあった小向地区の直線道路も含めて、維持管理による定期的な清掃、排水計画の見直し等を行い、改修工事が必要か検討していく。

次に、船越地区から小向地区の水路の嵩上げについては、美田港に接続している水路であり、今回の大雨時に満潮と重なり水路の水位が上昇したところである。嵩上げについては、既設水路に民間の構造物及び人家の出入口等があるなど高さの調整等必要となり、水路全体の嵩上げは困難であると判断し、一部水路の嵩上げについて検討していく。



実員 谷 竹 議員

畜産振興について

8月に開催された西ノ島町和牛改良組合総会で「肥育素牛産地から繁殖素牛産地への転換」として、島根県から4町村連携による「隠岐産牛」としての産地づくりについての説明があった。飼育頭数や出荷頭数が横並び状態の中で、他の地域に競り勝つためには、能力の高い牛、優良な牛の生産につながる西ノ島市場の活性化を図るとともに、受精卵移植を活用した繁殖雌牛の改良や、放牧を利用した低コスト生産の強化などの土台づくりが出来、安定した収入を得ることが可能となれば、子どもたちが継承することや新規農家など新たな担い手の確保は可能と考える。そこで次の3点について町長に伺う。

質問①畜産振興について西ノ島町の取組の考え方について

回答 町長

本町の畜産業の現状は、令和3年2月1日現在で飼養頭数878頭、繁殖雌牛629頭で、昨年と比較すると飼養頭数